

# 論壇

## デフレ経済をどうみるか?(後編)

株式会社ロジタント 代表取締役

吉田 祐起

### 21世紀の経済社会で 幸せ感を得るためには

前号で触れましたが、この度のデフレのマクロ的現象は「南北平均化」です。これに案外と気付いていないことが、デフレの現状認識や対応を誤った方向に導いていると喝破します。円安やインフレ誘導政策といった小手先のテクニクでは止めようがないという論拠は実のところ、マクロ的な南北平均化にあるのです。

今回のデフレは1929年の世界大恐慌とは本質的に異なります。ひと口に言えば、当時のデフレはクローズド(ブロック経済化)、対して現在のそれはオープン(グローバル化)にあるのです。過去の成功体験など役立つはずがありません。わが国だけの局地的経済政策ではどうしようもないのです。さて、では21世紀の経済社会でそれなりの幸せ感を得ようとしたらどうすべきか。そこに言及する前に、ちょっと参考にしてほしいことがあります。21世紀の生き方に関連して、筆者がよく引き合いに出すものがあり

ます。1999年7月に経済審議会(首相の諮問機関、豊田章一郎会長・当時)が、時の小淵総理に提出した答申です。「2010年ごろを目標とした新しい経済計画『経済社会のあるべき姿と経済新生の政策方針』がそれです。3つに限って記します。1つは「失業率3%台後半〜4%台前半」。2つは「所得格差の是認」。3つは「結果の平等が失敗し、「機会の平等」へのシフト」です。

ところが、折角の答申内容でありながらどうしたことか、その後現在に至って有識者間ですら全く忘れ去られている感じがします。10年間猛烈な努力をした上で2010年のそのような姿であることが望ましいということですから、そこに至る過程では目標数値より厳しい状態になることは避けられないと判断すべき。事実、惨憺たる現状がそれを如実に物語っているのです。折しも、「救国会議九人委員会」の提言要旨が日本経済新聞「経済教室」に寄稿されていま

した。メンバーである稲盛和夫・堺屋太一両先生共著です。ちょっと気になるコメントがあります。曰く「緊急に急ぐべきは不況脱出である。巷(ちまた)には「人と自然に優しい社会であれば不況でもよい」という主張もあるが、空想的過ぎる。(中略)経済の低迷は社会の劣化を伴うのだ。」がそれです。筆者は表現こそ多少の差はあっても、その巻の主張者の一人であり、このコメントに正面切って異議を唱えます。「人に優しい社会」という理想を、空想に終わらせて良いのでしょうか?

一方で、「犯罪は増え、清潔感や不祥事は多発する(同著中略部分)」という痛みを全く回避して、現下のデフレ克服が可能と考えることにも異議を抱きます。生半可な政策でデフレ脱却ができたなら、日本人の心に扶い難い驕りの心を生じせしめ、日

本人固有の誇るべきDNAの退化すら招来しかねないと主張します。痛みが分かって初めて、ホンモノのココロの豊かさに気付くのではないのでしょうか。

「悲観的過ぎる」ものでは決してありませんが、現在の閉塞感に苛まれる日本人の姿を見るにつけて思うのです。デフレ克服への過度な期待感を抱き、後で幻滅を感じるより、ここは一番腹を据えて、デフレとの対決でなく、共存・共生の気構えで前向きに処していくことが国民一人ひとりに求められている。これからが日本人の本来の強さと良さを発揮するホンモノの時代と受けとめることを提唱します。従来型のモノ中心主義からココロを大事にする生き方への転換です。世界一の長寿高齢社会を実現した日本人が世界に誇りをもって発信できる「21世紀の生き方処方箋」のモデルを演じることに通じると思うのですが、どうでしょう……。



プロフィール

昭和6年10月生まれ。同35年から運送事業経営に携わり、当初は零細個人事業だった会社を多角経営、分社化、M&A等でグループ7社、従業員百数十人、年高20億円の総合物流商社に育て上げた。平成5年10月、「総合物流・経営コンサルタント」へ転身、ロジタントを設立した。国内外の物流事情に精通し、先見の明をもった特論を展開。講演や業界紙への執筆を数多く手掛け、近々自身の著書も出版予定。